

現状の減災に係る取組状況

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
【氾濫域での対策（ソフト対策）】

防災活動の着実な実施・連携体制の構築(1/2)

■球磨川水系水防災意識社会再構築会議

- 第6回球磨川水系水防災意識社会再構築会議 幹事会(令和6年3月25日WEB開催)において、「球磨川流域の減災に係る取組方針(R3~R7)」の各機関における取組状況について確認した。
- 第12回球磨川水系水防災意識社会再構築会議(令和6年5月29日WEB開催)において、規約の改正や「取組方針(R3~R7)」に関する今後の進め方を確認。また、各関係機関における出水期までの取組状況について共有する予定。

【第11回球磨川水系水防災意識社会再構築会幹事会の実施】

【令和6年出水期までの代表的な取組状況】

- ・規約の改正
- ・各関係機関における取組状況を共有
- ・意見交換

- 水害リスクや防災情報に関しての地域住民への周知
 - ・「村民防災ブロック会議」開催等
- コミュニティタイムラインの推進



第6回球磨川水系水防災意識社会再構築会議幹事会の開催状況(令和6年3月25日)

(会議参加機関)

- ・球磨川流域12市町村、熊本県、熊本地方気象台、八代河川国道事務所、川辺川ダム砂防事務所



西瀬コミュニティタイムライン策定状況
(人吉市)



西瀬コミュニティタイムライン引渡式
(人吉市)



村民防災ブロック会議
(球磨村)R6.4.16

■令和2年7月球磨川豪雨災害を踏まえた流域タイムラインの深化

「球磨川流域タイムライン運用会議」

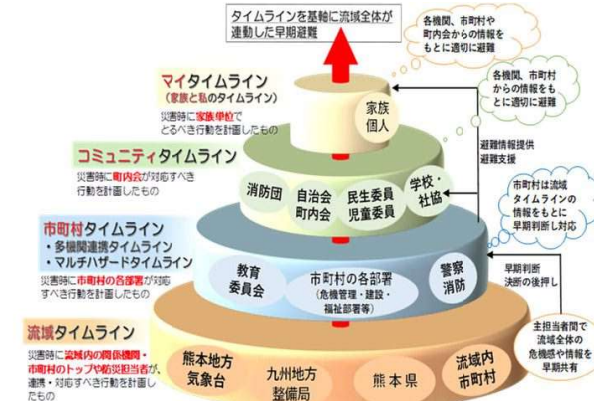
- 注意報・警報発表より早い段階において流域全体で危機感を共有し、各自治体や各機関が早めに防災行動へ着手することを目的として、令和3年5月19日より「球磨川流域タイムライン運用会議」を開催している。
- 会議では、熊本地方気象台や、タイムラインアドバイザー(東京大学 松尾一郎特任教授、元気象庁予報課長 村中 明アドバイザー等)より、大雨の予測や気象の見立てなど情報提供が行われ、自治体からは、「出水毎に気象台やアドバイザーによる降雨の見立てを受けて、早期の避難所開設の判断の後押しになった」との意見があった。



球磨川流域タイムライン運用会議の様子

「球磨川流域タイムラインの今後の展開」

- 球磨川流域では、流域全体の連動した避難行動、各自治体の早期判断・決断の後押し等を目的に、球磨川本川、支川、土砂災害を対象とした「流域タイムライン」をR4出水期前に作成し、出水期に試行運用した。今後、適宜見直しを行う予定。



流域タイムラインの施設管理者と市町村の連動イメージ

「令和5年度 球磨川流域タイムライン(深化)検討会」

- 令和4年5月16日に、球磨川流域に係る国、県及び流域市町村が一堂に会し、「令和4年度球磨川流域タイムライン発足式」「令和4年度 第1回球磨川流域タイムライン検討会」を開催し、6月3日には「令和4年度 第2回球磨川流域タイムライン検討会」をWeb会議にて開催し、令和4年度の「球磨川流域タイムライン」の取組を開始。
- 令和5年度では、流域タイムラインの深化を行うため、8月1日に「球磨川流域タイムライン検討会」を、令和6年1月11日には、「球磨川流域タイムライン深化検討会」を開催し、参加機関等が更に連携した取り組みを進め、防災対応における課題解決を図った。人吉市西瀬地区コミュニティTLの完成。
- 令和6年度:流域TL、コミュニティTL作成を継続し、作成したTLに基づき事前準備避難行動、振り返り(AAR)を実施予定。



第2回検討会開催状況 (R6.1.11)

＜参加機関＞

八代市、人吉市、芦北町、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村、九州地方整備局水災害予報センター、八代河川国道事務所、川辺川ダム砂防事務所、熊本地方気象台、熊本県

◇「球磨川流域タイムライン深化検討会」 R6.1.11開催

- ・令和5年台風6号のふりかえり
あさぎり町の防災対応について、早目の避難等対応が図られた。
熊本地方気象台は、線状降水帯の早期発表を行った。
- ・市町村の災害対応について
参加自治体の本川・支川氾濫対応における現状や課題について報告
- ・コミュニティタイムラインの取組について
令和5年度のコミュニティタイムラインの活動報告を行った。(八代市、人吉市、球磨村、あさぎり町)
- ・危機感共有と命を守る災害報道連携会議の取組について
現在、手引き書の作成に入ったことを説明。

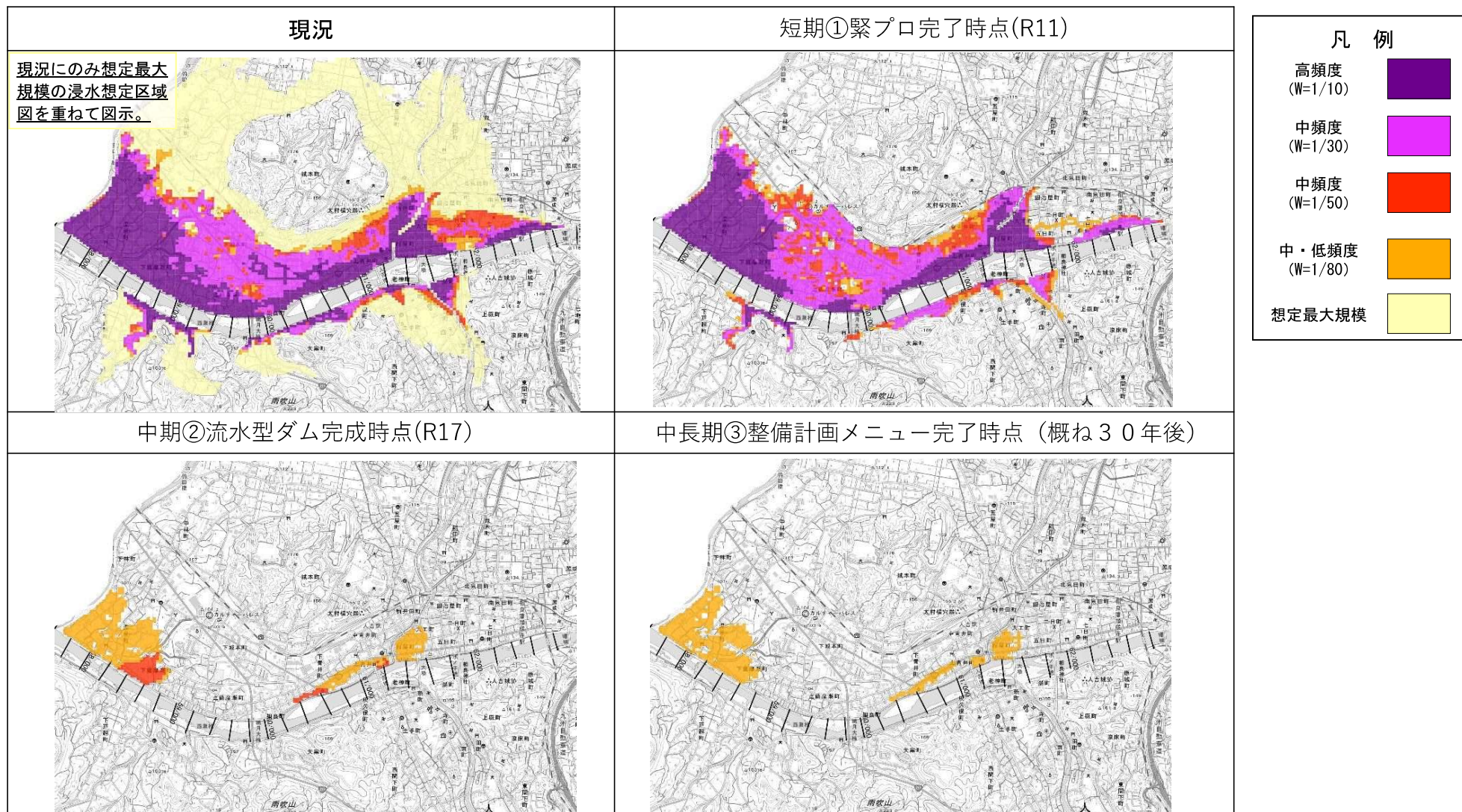
○現況及び河川整備計画の整備段階毎に、多段階(高頻度の洪水規模(確率規模1/10)から河川整備基本方針の洪水規模(確率規模1/80))の洪水を外力として、氾濫シミュレーション※を実施し、その結果から得られる浸水想定区域図の重ね合わせにより水害リスクマップを作成。(図は人吉市街部における水害リスクマップ。)

○人吉市立地適正化計画(R6.3)に記載の防災指針の中で、多段階浸水想定図が記載され水害リスクを踏まえたまちづくりを支援。

※シミュレーションの計算条件【降雨波形】河川整備基本方針で基準地点人吉の基本高水ピーク流量を決定しているS47.7洪水型の波形

【堤防決壊の想定】計画高水位を超える箇所では堤防が決壊(設定した堤防決壊地点: 57k800-62k800)した場合の氾濫シミュレーション結果。

【確率規模】河川整備基本方針で対象降雨の降雨量として設定する際に用いた確率分布モデルであるグンベル分布による年超過確率(気候変動考慮後の確率規模)



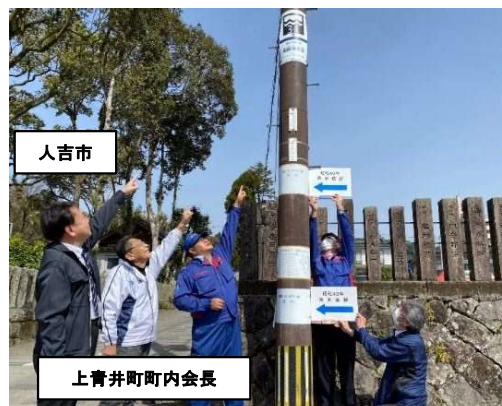
■令和2年7月豪雨で浸水した深さを示す「洪水標識」の設置(国、人吉市、八代市、球磨村)

○令和2年7月豪雨時の浸水深を示す「洪水標識」を生活空間である「まちなか」に表示することで、日頃から水防災への意識を高め、次世代に伝える記録として残しつつ、洪水時に命を守るための住民の避難行動の目安とすることで、被害を最小限にとどめることを目的に設置(R6. 5時点計60箇所)。今後も、順次被災箇所に設置を予定。

令和3～5年度の設置箇所数

令和3年度設置 計21箇所
 球磨村渡地区(R4.10.24) 2箇所
 人吉市上青井町(R5.3.14) 1箇所
 人吉市中青井町(R5.3.14) 4箇所
 人吉市駒井田町(R5.3.14) 8箇所
 人吉市城本町(R6.3.25・28) 4箇所
 人吉市瓦屋町(R6.3.25) 1箇所
 人吉市相良町(R6.3.25・28) 5箇所
 人吉市上・下新町(R6.3.25・28) 4箇所
 人吉市下原田(R6.3.26) 1箇所
 人吉市下林町(R6.3.26) 2箇所
 人吉市下薩摩瀬町(R6.3.26) 1箇所
 人吉市下戸越町(R6.3.26) 1箇所
 球磨村神瀬地区(R6.3.26) 1箇所
 球磨村渡地区(R6.3.26) 2箇所
 球磨村一勝地地区(R6.3.28) 2箇所
 計 60箇所

人吉市上青井町と協働で設置
(R4.3.25)



人吉市上青井、中青井、駒井田町と協働で設置
(R5.3.14)



人吉市相良町と協働で設置
(R6.3.28)



球磨村一勝地地区と協働で設置
(R6.3.28)



洪水標識

■NPO防災WEST・熊本地方気象台・八代河川国道事務所 協働防災学習（令和6年2月5日）

●相良村立相良北小学校 5年生～6年生 計5人 ※浸水ドア体験者(1年生～6年生 計10人)

- ・浸水体験ドアを使い、小学校で体験型の防災学習を開催。
- ・浸水深30cm～50cmあれば、容易に逃げることが出来ないことを実体験。
- ・洪水時に避難をするために必要な「早期避難」の必要性を理解する。
- ・大雨・洪水時にはどう行動したらよいか、参加した小学生から保護者へ呼びかけることで、家族で避難行動について改めて考える場をつくり、早めの対策・準備につなげる。

①八代河川国道事務所説明 体験実験&講義（25分）

- ・浸水ドア実験
- ・R2.7出水被害状況説明

②熊本地方気象台説明（20分）

③防災WEST説明

- ・水害時に自発的な行動をとり、命を守るためのグループワーク（25分）
- ・総評・まとめ
- ・ハザードマップについて
- ・マイタイムラインの作成
- ・発表・まとめ



浸水ドア体験①



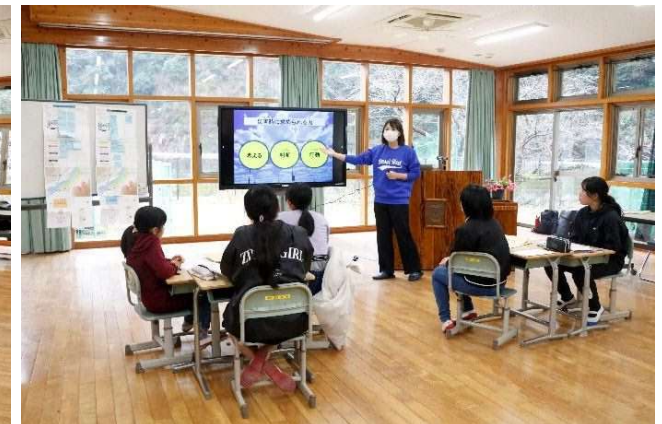
浸水ドア体験②

●参加した生徒の感想（感想文を引用）

- ・浸水ドアでは、少しの水の量だけでも開けるのが難しくなってしまうようなことになることも初めて知りました。
- ・「考える」・「判断」・「行動」の三つを大切にして早めに避難することが大切なんだと思いました。
- ・家族と話し合って災害から身を守るための工夫をしていきたい。



マイタイムラインの作成



総評・まとめ

八代河川国道事務所の取組状況

～ 学校関係者を対象とした防災教育の研修 ～

48

八代市教育委員会職員への防災講習 (R5.9.5)

OR2.7豪雨により八代市でも甚大な被害が生じた。豪雨災害から3年が経過したことから、八代市教育委員会の職員に対して、防災に関する日頃の備え、行政職員としての心構えなどについて防災講習を行った。

○教育委員会職員への説明を行うことで、先生方にも防災教育の重要性が認識され、子どもたちの学校教育の中での学びとして、今後活かされることを期待。



八代市教育委員会教育長の発言



八代河川国道事務所 流域治水課長による防災講習



八代市職員39名の参加による講習

48

学校と連携した防災教育の推進の取組み（出前講座）

- 6月の「土砂災害防止月間」に合わせて、地域子ども達に「出前講座」を実施。
- 子ども達の防災意識の向上を図るため、防災情報収集の方法や、パネルを使用した土砂災害警戒避難情報を紹介。
- また、砂防事業の取り組みとして、砂防模型を使用した砂防堰堤の目的・効果、及び防災機器の説明等を実施。

- ・五木村村立東小学校 : 6月16日 10:40～11:25
- ・八代市立東陽中学校 : 6月19日 15:05～15:55
- ・五木村村立五木中学校 : 6月23日 11:40～12:30



五木東小学校



八代市立東陽中学校



五木中学校・人吉高校分校



防災展「土砂災害から守る砂防」

- 6月の「土砂災害防止月間」に合わせて、五木村歴史文化交流館（ヒストリアテラス五木谷）にて、「土砂災害から守る砂防」と題し、国土交通省の砂防及び防災に関する取り組みを紹介する企画展示を実施。
- 防災コーナーでは、地域の地形ジオラマや学校教育でも活用してる防災カードゲームの体験・映像視聴を展示。

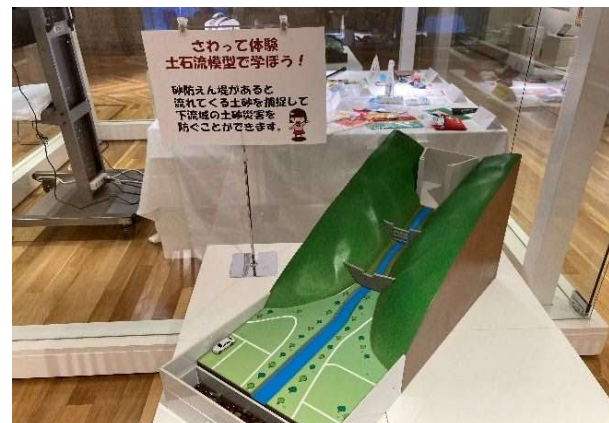
■場所：五木村歴史文化交流館（ヒストリアテラス五木谷）
■期間：令和5年6月6日～7月9日



防災展紹介ポスター



避難時携帯品展示



地形ジオラマ展示(警戒区域表示)



パネル展示



パネル展示(観覧状況)

市町村における地域防災支援のための気象解説について、Web会議を活用した定期的な気象解説、および悪天時の常時接続等の実施により改善

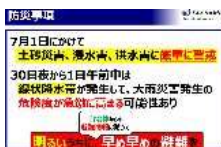
目的：気象台の危機感を伝えるとともに防災対応に役立てていただく

既存取組

警報級の可能性[高]の
Web気象解説

台風・大雨説明会

記者会見
(河川国道との合同含む)



自治体、関係機関、報道

+

新規取組 (R5)

R5.6.9~

定期的なWeb気象解説
毎週金曜11:30~



当日スケジュール

~10時 開催案内(解説内容・URL)
~11時半 資料送付
11時30分~定時気象解説
終了次第 YouTube動画を限定公開

■解説内容

- ・季節に応じた天気の見通し
- ・要望に応じた気象知識
- ・地震火山に関する知識



自治体、関係機関

予報官

危機感の共有



悪天時 常時接続



臨時のWeb気象解説
(悪天時常時接続)



解説内容

- ・天気の見通し(現象のピークなど)
- ・警報等発表の見通し
- ・警報等解除の見通し



自治体担当



熊本県が令和2年7月豪雨を教訓に防災担当職員の対応能力向上および関係機関との連携強化を図る豪雨対応訓練への参加協力

年間スケジュール

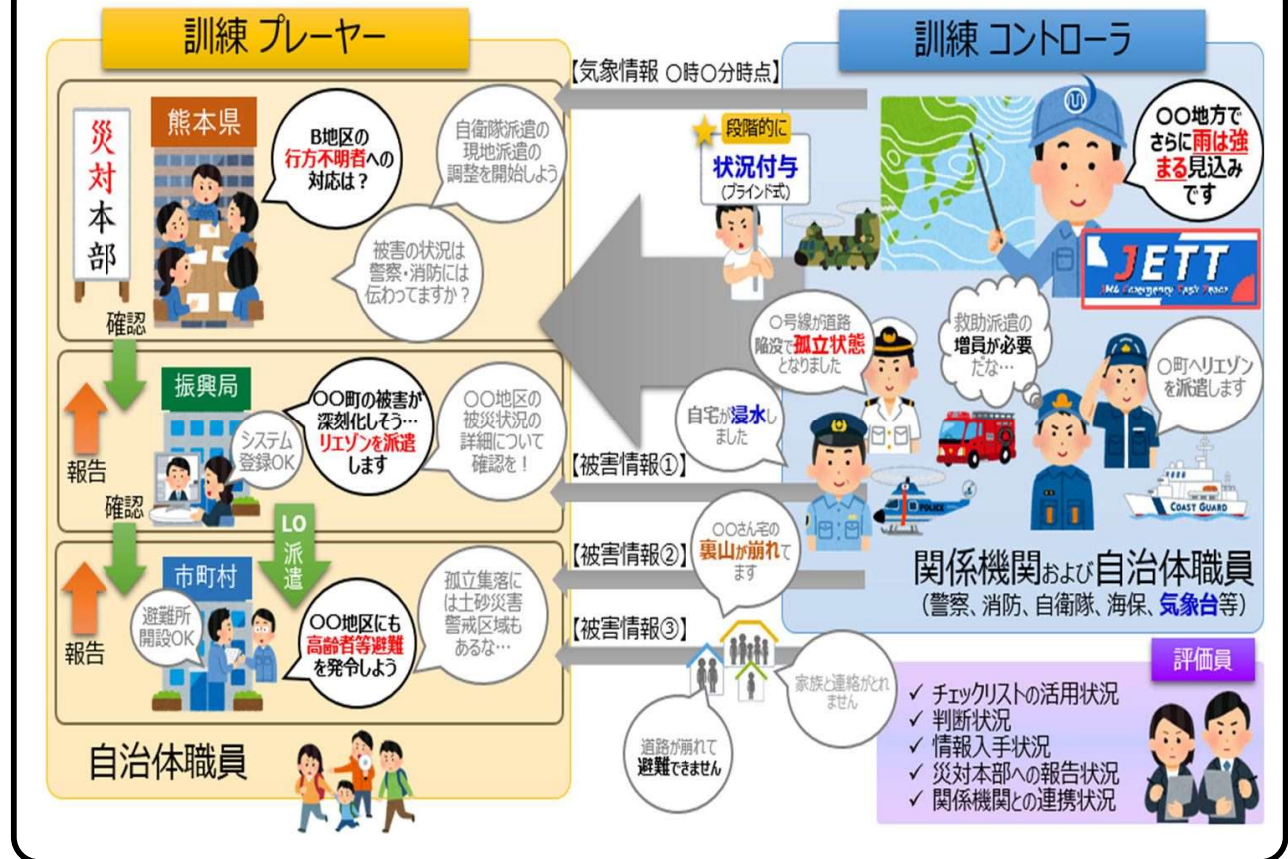
月	予定
9	市町村・関係機関向け周知
10	日程調整
11	訓練計画作成
12	訓練シナリオ細部調整
1	①豪雨対応訓練
2	②③豪雨対応訓練
3	(人事異動期のため休止)
4	④豪雨対応訓練
5	⑤⑥⑦豪雨対応訓練

参加対象市町村に応じた
気象状況資料を作成

《訓練毎の対応》

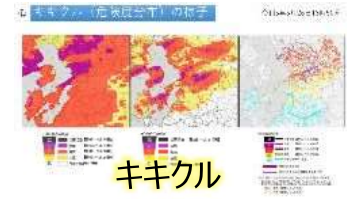
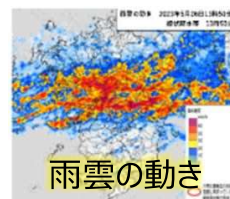
訓練

訓練当日の全体イメージ



気象台の役割

- ✓ 訓練シナリオ (詳細) 作成に関わる助言
- ✓ 参加市町村に特化した付与資料 (防災情報等) の作成
- ✓ コントローラとして訓練参加



- 毎年出水期前に報道機関を対象とした気象連絡会を実施
- 11機関19名が参加（令和5年5月25日）



令和5年度の開催の様子

対面形式とWeb形式を併用し、
以下の内容に関して報道機関
に対して説明を実施。

（令和6年も5/23実施）

- 梅雨から夏の天候の見通し
- 防災気象情報の改善
- 阿蘇山の火山活動状況
- 熊本県の地震活動
- 意見交換

リアルハザードマップの設置

- ・リアルハザードマップ(モデル版)を12市町村に配布。
- ・国設置分と合わせて81箇所設置済み(～令和6年3月)。



リアルハザードマップ(あさぎり町)



リアルハザードマップ(球磨村)

マイタイムラインの普及

- ・マイタイムラインを手軽に作成できる専用Webサイトを開設(令和3年9月)。
- ・専用Webサイトでの公開や市町村における出前講座、学校での防災授業等で活用する作成支援動画を制作(令和4年10月)。
- ・学校等と連携し、子どもから家庭への浸透を図るために、マイタイムラインを活用した防災教育モデル授業等を実施。
(令和4年度:球磨工業高校等20校、令和5年度:相良北小学校等20校)
- ・新中学1年生へのマイタイムラインガイドブックの配布(毎年4月)



専用Webサイト



作成支援動画



県内全市町村を対象とした豪雨対応訓練の実施

- ・令和3年1月から、全市町村を対象に豪雨対応訓練を実施。
 - ・令和5年度にも、全市町村を対象に計7回の訓練を完了(～令和5年5月)。
- ※訓練は、ブラインド型で実施

避難行動要支援者の個別避難計画、住民参加型避難訓練の実施

- ・「マイタイムライン」を活用した住民参加型訓練を実施(令和3年度～)。
- ・県と市町村が連携した個別避難計画に係る訓練等を実施(令和3年度～)。
- ・市町村職員、地域関係者等を対象にモデル地区事例集を活用した研修会を実施し、個別避難計画の実効性向上を推進(令和5年度～)。



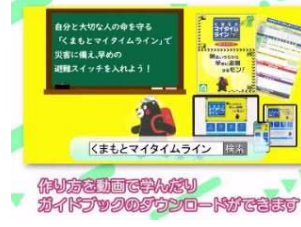
避難訓練(球磨村)



人吉市ほか4市町村の取組事例等を紹介

防災啓発情報の提供

- ・テレビ、ラジオ、県からのたより、SNS等によるマイタイムライン作成等の呼びかけを継続的に実施。
- ・県内プロスポーツチームの公式SNSでの防災啓発情報の提供。



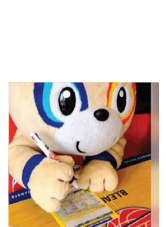
県政広報テレビ



県からのたより[令和5年6月号]



ロアッソ



ヴォルターズ

「防災教育研究推進校」の指定

- ・球磨村の球磨清流学園を「防災教育研究推進校」に指定(令和6、7年度)。
- 学校、地域、市町村の防災関係部局等との連携・協働による、防災教育の充実を図る。

熊本の取組状況

～危機感共有と命を守る災害報道連携会議～

55

危機感共有と命を守る災害報道連携会議

○令和2年7月豪雨で大きな被害を受けた球磨川流域を中心とした県南地域で発災前から危機感を高め、地域住民の命を守るために国や自治体、防災関係機関、報道機関が防災情報の共有により防災・減災力を強化することを目的とした会議。

＜本会議の取組みと成果＞

- 本会議で発案された在熊TV5局制作の早期避難を呼びかけるテレビスポットを、令和5年5月29日から9月30日まで放送。
- このテレビスポットについては、令和6年度も、令和6年5月27日から9月30日まで放送予定。

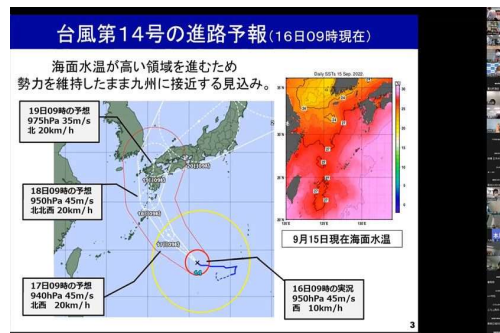
※早期避難を呼びかける本取組について、
令和4年度水防功労者九州地方整備局長表彰を受賞。



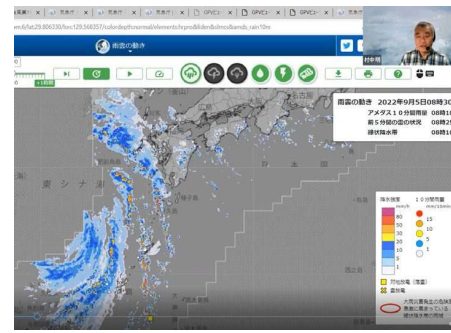
- 令和5年度は、大雨や台風の直前に行う臨時ワーキングを6回開催し、気象台からの情報提供や専門家による解説、情報共有を実施。最新の情報の共有を図ることで、自治体では**早期の避難所開設や避難情報発信**につながった。また、報道機関では**早期の報道体制の整備**（L字放送の入力準備等）に役立ち、**早期の速報発信**につながった。
- 令和6年2月22日には、**連携会議報告会**を開催し、これまでの成果発表やパネルディスカッションを行った。
- 令和6年度は、5月8日、16日に勉強会を開催し、**出水期に向けた最新の気象・防災情報の共有**を実施。



臨時ワーキングの開催状況
(オンライン)



臨時ワーキングでの
気象台からの情報提供



臨時ワーキングでの
専門家による分かりやすい解説



L字放送の実施

- 県の治水ダムでは、ダム情報により災害時における住民の迅速かつ円滑な避難に繋げることを目的に、緊急時の情報発信の強化として、県統合型防災情報システム内の新たな表示項目の追加やメールサービスやSNSによる情報発信を開始。
- 訓練の強化・充実として、ダム洪水対応演習において事前放流や緊急放流を想定した訓練を実施。
- 避難行動・水防活動に資する基盤等の整備として、水位計・河川監視カメラの増設を実施。

緊急時の情報発信の強化（新たなツール）

- ・令和5年6月から緊急時の住民への情報発信を強化するため、県統合型防災情報システム内の新たな表示項目の追加や県防災情報メールサービスやSNS（Yahoo防災、X（旧Twitter）等）を活用して、県から直接住民へ情報発信を開始。



県統合型防災情報システム



県防災情報メールサービス



X(旧Twitter)(イメージ)

普及啓発活動の実施

- ・ダムの役割や操作を解説したパンフレットや動画を活用して、沿川住民への現地説明会や市町村職員への説明会等を開催。



訓練の強化・充実

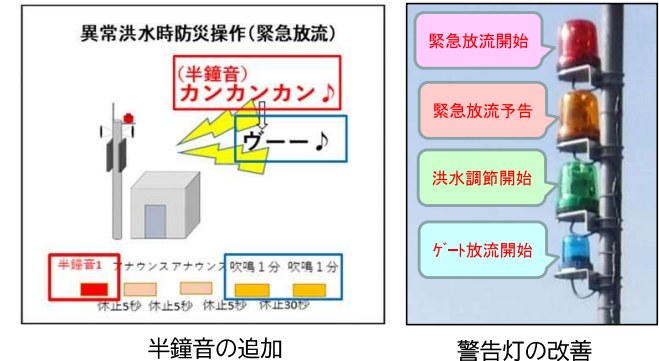
- ・4月23, 24日のダム洪水対応演習において、関係利水者も参加し、治水協定に基づく事前放流や緊急放流を想定した訓練を実施。



訓練等の実施状況(R6.4.23～24)

警報局（サイレン・警告灯）の改善

- ・緊急放流時に半鐘音を追加するとともにダムの操作状況に応じた4色表示の警告灯へ改善し、令和5年より本運用開始。



河川監視カメラ映像及び水位情報の発信

- ・令和2年7月豪雨以降に水位計13基、河川監視カメラ33基を増設(権限代行含む)。また、氾濫危険箇所に河川監視カメラを増設予定。
- ・川の水位情報 (<https://k.river.go.jp>) で河川の状況に関する情報を発信。



都川(湯前町)河川監視カメラ(左図:外観 右図:夜間カメラ映像)

○土砂災害特別警戒区域内の居住者の生命及び身体を保護するため、土砂災害警戒区域外への移転に要する費用に補助金を交付する市町村に対して県が支援。

県土砂災害危険住宅移転促進事業による安全な地域への移転の支援

土地利用の誘導・安全な場所へ移転促進

事業名 土砂災害危険住宅移転促進事業

概要 土砂災害特別警戒区域内の居住者の生命及び身体を保護するため、**土砂災害危険住宅の移転**を行う方に対して、**移転に要する費用に対し補助金を交付する市町村を県が支援。**

補助率 市町村事業（県は間接補助） 1/1（最大300万円以内）

補助要件

- ・住宅の居住者が土砂災害警戒区域外に移転すること
- ・住宅の除却を行うものであること
- ・移転先が熊本県内であること

補助内容

- ・移転経費（動産移転費等）
- ・移転先住宅の建設・購入費、リフォーム費
- ・危険住宅の除却

〈取組状況〉

- ・ **令和2年7月豪雨被災者に限定**し、交付決定前に行われた移転の経費についても、本事業に**遡及適用**できるよう**交付要項を改定**。
- ・ 流域内の7月豪雨被災者の交付決定実績
令和3年度 流域市町村10件、うち被災者7件
令和4年度 流域市町村 9件、うち被災者7件
令和5年度 流域市町村10件、うち被災者7件

被災者の土砂災害の影響がない安全な地域への移転を実現

〈今後の取組〉

- ・ 今後も本事業の活用を推進し、被災者の安全確保を図る。
- ・ 市町村と連携し、本事業の周知を図る。



- 球磨川流域における生活の再建並びに、市街地・集落の復興の推進等、安全・安心な地域づくりのため、球磨川流域復興基金交付金事業により市町村の取組みを後押し。
- 災害リスクの低い場所への家屋の移転や安全対策等を促進する他、流域市町村が取り組む防災・減災ソフト対策等を支援する。
- 令和6年度も、引き続き、市町村のニーズに応じた支援を実施・検討する。

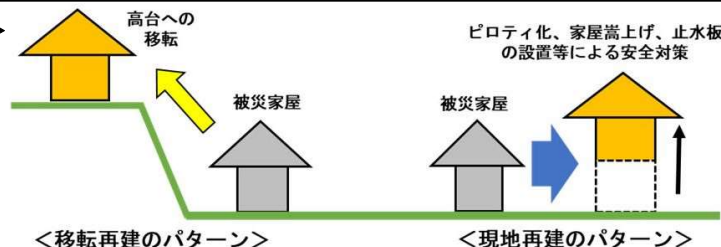
災害リスクの低い場所への移転促進及び現地再建の安全対策

- 事業名 すまいの安全確保支援事業
- 概要 災害リスクの低い場所への移転やピロティ化等を行う住民に対し費用を助成する市町村を県が支援。
- 補助率 市町村事業 県2/3 市町村1/3（県補助上限 200万円）
- 補助要件 ① 自宅が被災したこと（罹災証明を受けた家屋）
② 自力再建をすること
③ 再建方法に応じて以下を満たすこと
- ＜移転再建の場合＞
- ・同一市町村内であり、災害リスクの低い場所であること
 - ・移転先が被災した地域の場合、ピロティ化等の安全対策を行うこと
 - ・移転元地に建物が残る場合には住居の用に供しないこと
- ＜現地再建の場合＞
- ・ピロティ化や土砂災害対策等の安全対策を行うこと
- 補助内容 ①災害リスクの低い場所への移転に要する経費
②すまいの安全対策等に要する経費

＜取組状況＞

- ・球磨川流域7市町村で事業化し、令和5年度末までに115件の移転等を実現（支援対象期間：令和2年7月4日以降）

＜活用イメージ＞



被災市町村が取り組む防災・減災ソフト対策等の支援

基本
理念

逃げ遅れゼロの推進

市町村の防災力底上げ

＜取組状況＞

流域市町村が取り組む防災・減災ソフト対策支援を強化し、球磨川水系の洪水から人命を守り、財産被害の最小化を図る。

＜令和5年度流域市町村実施事業＞（一部抜粋）



IP無線機（人吉市）



水災補償加入促進
補助金チラシ
（八代市）



防災学習の日（球磨村）



避難所用ポータブル蓄電池（錦町）

○「緑の流域治水」について、球磨川流域住民をはじめ広く県民に情報を発信するための見える化の取組みとして、「緑の流域治水」の取組みを分かりやすく伝える動画や模型、パンフレットを制作。
また、若い世代にも広く発信するため、新たにSNS(Instagram)の開設や、小学生向けの動画を制作。

動画

解説動画



小学生向けの動画



ノベルティグッズ



ピンバッジ



付箋

模型



パンフレット



SNS



ブース出展 (くまもと産業復興エキスポ)



○県民の「緑の流域治水」に対する理解や防災意識の向上を図るため、以下をはじめとした取組みを実施。

- ・ 作成した動画のYouTubeでの配信
- ・ 県教育委員会と連携し、県内全域の小・中・高等学校の防災主任(教職員)への説明。また、県内の小・中・高等学校に対して、動画の視聴やアンケートへの回答を依頼。
- ・ さらに、球磨川流域においては、周知活動として、防災会議や出前授業を通じて、防災関係者や児童・生徒・教職員等へ直接説明を実施。 ※令和6年3月末現在の県内の説明実績(計65回、延べ約3,900名)

○引き続き、様々な機会を捉えて、「緑の流域治水」の取組みの情報発信を行う。



市町村の防災関係者への説明(人吉市防災会議)



出前授業(相良北小学校)

県内小・中・高等学校のアンケート結果より

Q. 動画を見ての感想

- ・ 災害に備え 自分にできることを考えるきっかけになった(小学生)
- ・ 球磨川流域で 沢山の治水の取組みをしていることを学んだ(中学生)
- ・ 球磨川流域の 地形を学び洪水や氾濫の仕組みを理解した(高校生)
- ・ 動画の視聴後、生徒から7月豪雨の体験を踏まえた話がある等 災害に対するアンテナの高まりを感じた(教職員)

⇒「緑の流域治水」に対する **理解や興味関心、防災意識の向上に寄与**

YouTube掲載動画のQRコード

- 「緑の流域治水」の取組み
 - ・ 統合版: 緑の流域治水について(6分57秒)
 - ・ Part1: 球磨川の地形の特徴(2分2秒)
 - ・ Part2: 洪水発生メカニズム(2分27秒)
 - ・ Part3: 「緑の流域治水」の取組み(2分28秒)
- 「緑の流域治水」に関する動画(小学生向け)(8分49秒)
- 「緑の流域治水」の解説(9分4秒)
- 「緑の流域治水」の広報(1分58秒)



自助の取組の推進

①防災フェスタ2023の開催

開催期日：令和5年11月3日（金・祝）
・防災啓発と更なる防災意識の高揚を目的に開催。（来場者数：約1,500名）



②防災教育の推進

・令和5年9月5日に開催された八代河川国道事務所主催の防災講習を教育委員会職員39名が受講。
・令和6年度から令和8年度の3年間で、八代市内全ての小学校において、専門家を招いた防災講習会等を実施予定。

③防災アプリ等の登録推進



スマートフォンや戸別受信機等に防災情報を配信。



<登録件数>
26,408件

④出前講座の開催

テーマ：災害への備え、マイタイムライン
開催数：自主防災会や町内会等 26回

共助の取組の推進

①八代市登録防災士の育成

地域の防災活動に積極的に取り組む意思のある防災士を市登録防災士として認定。
（現在108名登録）



②自主運営避難所の登録推進

地域の集会施設等を市に登録し、自主防災会等が自主的に開設・運営する。
※坂本地区以外に拡充
（現在登録数 11地区12施設）

③住民参加型防災訓練の実施

3校区で開催、市民約450名が参加



④自主防災会の育成

・地域防災リーダー育成研修会を開催（年3回）
・地区防災計画作成研修会を開催



公助の取組の推進

①防災備蓄倉庫の整備

大規模災害時の食料や資機材を保管し、避難者の早期支援を実現するため、拠点となる大型の備蓄倉庫を整備。
（R2～R6の間に市内4カ所）

②避難所の機能強化

<エアコンの設置>

避難所における良好な生活環境を確保するため、小中学校体育館へエアコンを設置。（R4～R7の間に市内18カ所）

<スマート避難所システム（はちパス）>

ICT等のデジタル技術を活用し、避難者の入退出や健康状態等の把握をオンラインで行うシステムを構築。



③関係機関との訓練実施



<県との豪雨対応訓練>

<市総合防災訓練>

令和5年度 人吉市の取組

スマホ・PC



防災ポータルサイト

球磨川などの河川情報、気象情報、避難所情報など、防災・災害情報をまとめたサイト。防災ラジオの放送履歴や水の手帳の様子も確認できます。

▶防災ポータルサイト



総合防災マップ(ハザードマップ)

市役所窓口でも配布中



球磨川など主な河川の浸水想定区域や土砂災害の危険性が高い場所、指定避難所などの情報をまとめた地図です。

▶総合防災マップWEB版

ラジオ

市防災無線窓口で配布中



市内全世帯・全事業所に配布(無償貸与)している防災ラジオは、防災行政無線の放送内容と同じ情報を聞くことができます。

ご存じですか？ 人吉市の 防災・避難情報 入手方法

人吉市では、令和2年7月豪雨を受け、災害が想定される場合には確実に情報をお伝えし、早めの避難を確実に実行していただくため、防災・避難情報の発信を強化しています。

現在、ここで紹介するような情報入手方法がありますので、ぜひ活用してください。



テレビ



地デジ 3 チャンネル

視聴方法
① RKK テレビを視聴
② リモコンのdボタンを押す
③ 「デタポン」を選び「決定」を押す

スマートフォン専用アプリも便利です！



SNS

市公式 SNS では、防災・緊急情報をはじめ市役所からのお知らせを発信しています。LINE とX(旧Twitter)では、防災行政無線の放送内容も配信しています。

市公式LINE



@hitoyoshi_city
市のイベント情報
なども日々発信

市公式X(旧Twitter)



@hitoyoshishi

市公式Facebook



@hitoyoshishi

Yahoo!防災速報アプリ



「地域の設定」で「人吉市」を設定してください



ライティング防災アラート

球磨川の氾濫危険度を水の手帳の照明色の変化で視覚的に知らせます。緊急時は川や橋を直接見に行くことは避け、防災ポータルサイトで確認してください。



計画高水位以上(赤点滅)
氾濫危険水位以上(赤色)
氾濫注意水位以上(白色)

スムーズな避難のために

ポケコム(避難所受付システム)

スマートフォンで事前に情報を登録しておく、2次元コードを提示するだけで避難所での受付が完了します。

▶「ポケコム」事前登録はこちら



防災訓練(豪雨対応訓練)



コミュニティタイムラインの作成支援



実績浸水深の標識設置



住民や観光客など、誰もが水害に対する危機意識を持つことができるよう、R2.7月豪雨の実績浸水深の標識を設置。

(R5年度19箇所設置)

指定避難所の体制強化

指定避難所の見直し

令和2年7月豪雨災害を受け、被災した指定避難所の除外、河川沿いに位置する指定避難所は通常開設する避難所から変更するなど指定避難所の一部を見直しを実施。

(見直しを行った指定避難所)

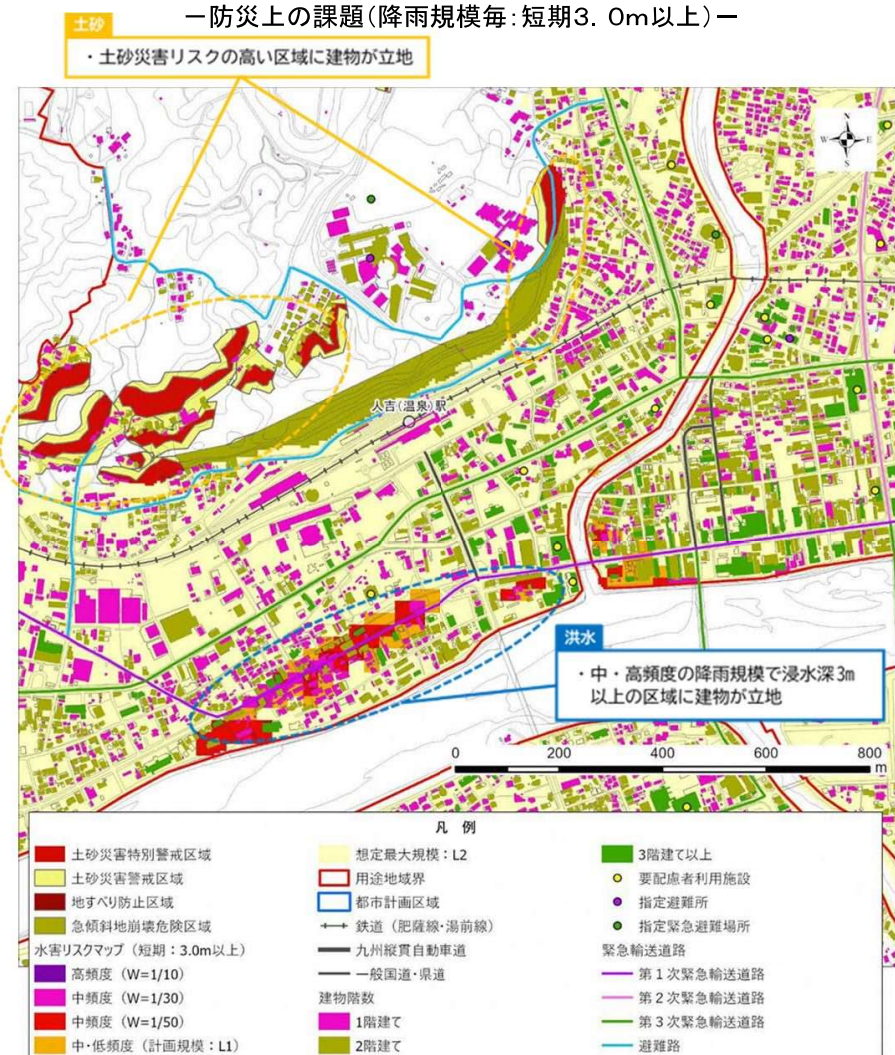
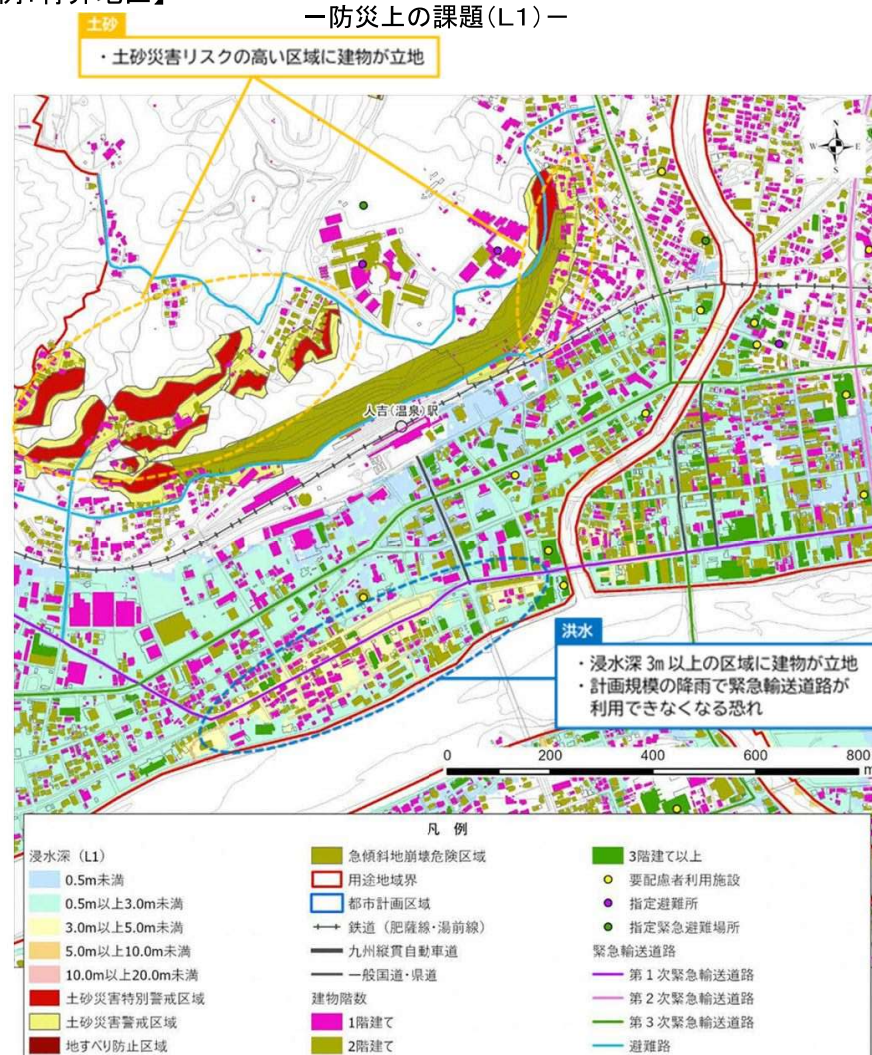
- ・第一中学校
⇒保健センター(市役所別館)

人吉市立地適正化計画における水害リスクへの対応

防災・減災のための対策を検討するため、従来の洪水浸水想定区域図に基づく水害ハザードマップに加えて、より発生頻度の高い降雨による浸水範囲、浸水頻度、浸水深の関係をわかりやすく図示した「多段階の浸水想定図」、「水害リスクマップ（浸水頻度図）」の作成・公表が全国で順次進められています。

球磨川については多段階の浸水想定図及び水害リスクマップが作成・公表済されていますので、人吉市立地適正化計画では、防災指針の中でこれらのデータを活用し、水害リスクに関する地区ごとの課題を分析し、水害リスクへの対応として、地区ごとの防災・減災の取組を検討しています。

【例：青井地区】



- ・ 防災講話・教育の実施
- ・ 住民参加型防災訓練の実施
- ・ ドローンを活用した実証実験及び飛行訓練
- ・ 地区防災計画作成支援
- ・ 防災士育成事業補助金
- ・ 地域防災力強化支援事業補助金
- ・ 避難所看板設置
- ・ 防災フェスティバルの開催 等



避難所看板設置



防災倉庫内容物確認訓練



避難訓練後の振り返り

<防災フェスティバル>

住民の方に楽しみながら防災への意識を高めていただき、自主防災活動の推進や地域における防災意識の高揚を図るため令和5年10月28日に「防災フェスティバル」を開催



<地区防災計画作成支援>

令和5年9月21日・22日、令和6年1月18日に説明会を開催し、40の自主防災組織が参加。難しい計画ではなく、小さなこと・簡単なことでもいいので地域で必ず行うことを盛り込んだ分かりやすい計画を作っています。



防災避難マップ(地区防災計画)作成の取組み

堀の角区防災計画

支え合いマップ
防災避難マップの作成



防災避難マップを活用した避難訓練

- 堀の角区防災避難マップ
- 堀の角区ご近所支え合いネットワーク(緊急連絡先)
- 堀の角区自主防災会名簿(5個班体制)

令和5年12月21日
堀の角区自主防災会

塚脇区防災計画

令和5年度策定



石坂区防災計画



- 石坂区防災避難マップ【4個隣保班分】
- 石坂区ご近所支え合いネットワーク【4個隣保班分】
- 石坂区自主防災会名簿【5個班体制】

令和6年1月18日
石坂区自主防災会

「防災避難マップ」(地区防災計画)で避難行動要支援者の命を守る！

「支え合いマップ」で見える化！

お茶のみ等、日頃のお付き合い

買い物支援



声かけ・見守り



ゴミ出し支援



支え合いマップ



社会福祉協議会と役場で作成を支援します。

「支え合いマップ」で明らかになった
要支援者の命を守るために「防災避難マップ」を作成！



役場と社会福祉協議会で作成を支援します。

「防災避難マップ」で見える化！

要支援者の避難支援



避難経路・避難要領



避難目標(避難所等)



危険地域



地区防災計画作成の進捗状況

- : 町防災会議において地区防災計画を承認
 : 支え合いマップから防災避難マップを作成した区
 : 新たに支え合いマップから防災避難マップを作成した区(本年度の防災会議において地区防災計画として承認予定)

	区	地区防災計画の状況	その他
①	永山区	令和3年度町防災会議で計画を承認	○令和4年町防災の日に防災行政に対する貢献により表彰 ○地区防災計画フォーラム2022(内閣府)に参加
②	熊野区	令和4年度町防災会議で計画を承認	○令和4年区の防災訓練を実施 ○令和5年町防災の日に防災行政に対する貢献により表彰
③	庄屋区	令和5年度町防災会議で計画を承認	○令和5年区の防災避難訓練を実施 ○令和5年町の防災訓練に積極的に参加 ○令和6年町防災の日に防災行政に対する貢献により表彰予定
④	柳別府区	令和5年度町防災会議で計画を承認	○令和5年区の防災避難訓練を実施 ○令和5年度内閣府防災町づくり大賞にエントリー ○他自治体の防災研修(古賀市・新宮町・大津町)対応 ○熊本県防災ボランティアセミナーでの取組発表 ○令和6年町防災の日に防災行政に対する貢献により表彰予定
⑤	岡麓区	作成中	○令和4年に支え合いマップを作成 ○令和4年に防災避難訓練を実施
⑥	覚井区	上手班作成中	令和4年に支え合いマップを作成(覚井班・上手班)
⑦	堀の角区	素案を町に提出済み	○令和4年に支え合いマップを作成 ○令和5年に防災避難マップを作成し、区の避難訓練を実施
⑧	石坂区	素案を町に提出済み	○令和5年に防災避難マップを作成し、区の避難訓練を実施
⑨	塚の脇区	作成中	○令和5年に防災避難マップを作成し、区の避難訓練を実施

防災避難訓練の実施

①防災避難マップ(地図上に避難目標・避難経路・避難要領を図示)に基づき、②各隣保班毎に第一集合場所に集合し、班内の安否を確認後、**③班毎に避難目標の公民分館に避難、その際の避難行動要支援者の避難は共助の力で支援**

④避難終了後、公民分館に集合し、町の防災の取り組み、非常食の紹介及び振り返りを実施し参加者の意見を聴取



避難行動要支援者の命を守る為に

避難行動要支援者

- ① 自宅で安全が確保できない人
- ② 自ら避難することが困難で、避難に支援を要する人



地区防災計画(自助・共助)

共助の力で作成



家族・親族等の支援
で避難(自助)



近所・隣保班・区等
の支援で避難(共助)

共助の力では
避難が困難な方

整合

個別避難計画

公助と共助が協力して作成



介護度が高い自宅介護の
高齢者・傷病者・障害者等

- ・ 自主防災組織・防災士会・民生委員・消防団を対象とした防災研修等の開催及び参加要請
- ・ 町内自主防災組織全て（49組織）の地区防災計画作成完了
- ・ 消防団による浸水想定区域住民への個別訪問の実施
- ・ 町内防災士による自主防災組織の防災訓練時の講話の実施

＜自主防災リーダー育成研修会＞



自主防災組織リーダー研修会の様子

身近な災害の危険を知り、危険から身を守るために
自主防災組織リーダー育成研修会

6月18日、区長や地区役員
および防災士を対象とした「自
主防災組織リーダー育成研修
会」を開催し、約120名の
方が参加されました。

当日は、本町の地方創生顧
問・地域資源プランニング
アドバイザーで熊本大学
の喜多加納子助教から「危
機管理等について」熊本
危機管理課の日向孝一支
援員から「タイムラインを
活用した住民参加型避難訓
練」について講話がありま
した。

今後の台風シーズン、い
ちどおるが分らない地震の
対応として、備蓄物資の準備
や家具の転倒防止対策など日
頃からの備えをお願いします。

出典：多良木町広報誌

＜防災士・民生委員等合同研修会＞



災害時高齢者支援の充実に向けて
防災士・民生委員等合同研修会

9月24日、多良木町研修センタ
ーで防災士・民生委員等合同研
修会が開催されました。

今回の研修は、災害時の高齢者
への支援を学ぶことを目的に開催
されたもので、防災士と民生委員、
社会福祉協議会の職員の方々が参
加されました。

講師から「防災リーダーの役割
と自主防災組織の紹介」「高齢者支
援」について講話があり、災害時
の支援充実に向け、実りある研修
となりました。

出典：多良木町広報誌

＜地域の避難支援体制作り研修会＞



ワークショップに取り組む参加者

個別避難計画への理解深める
地域の避難支援体制作り研修会

2月1日、多良木町多目的研修
センターにおいて、熊本県主催の
「地域の避難支援体制づくり研修
会」が開催されました。

自主防災組織や防災士、民生委
員などが参加し、要支援者の個別
避難計画について理解を深め、避
難体制づくりの取組を進めるワー
クショップが行われました。

個別避難計画とは災害時に自ら
避難することが難しい「災害時避
難行動要支援者」の避難支援体制
構築に向けた、一人ひとりの事業
を踏まえた避難計画で、町では同
計画の作成を推進しています。

出典：多良木町広報誌

- ・「災害時要配慮者等の一時避難所としての使用に関する協定」を締結
- ・「上球磨地域介護事業所連絡会災害時等における協力協定」を締結
- ・令和5年11月12日に災害時要配慮者等の一時避難所（多良木6区の3公民館）にて上球磨地域介護事業所連絡会災害対応訓練実施

＜災害時要配慮者等の一時避難所としての使用に関する協定締結＞



公民館を要配慮者の一時避難所に
多良木6区の3と協定締結

9月25日、役場応接室において、多良木6区の3と「災害時要配慮者等の一時避難所としての使用に関する協定」を締結しました。

この協定は、台風や集中豪雨による浸水被害などの災害が発生した際に、多良木6区の3公民館を要配慮者等の一時避難所として使用させていただくものです。

この協定により、高齢者や障がい者等が避難しやすい環境の整った施設の提供が可能となります。

ご協力誠にありがとうございます。

出典：多良木町広報誌

＜上球磨地域介護事業所連絡会災害時等における協力協定締結＞



頻発する大規模災害や感染症に対応
災害時における協力協定の締結

7月4日、球磨郡公立多良木病院にて、「上球磨地域介護事業所連絡会災害時等における協力協定締結式」が行われました。

この協定は、災害時における町村および施設・事業所の連携をさらに強化し、不足する備品の貸与や資材・備蓄品の提供、職員の派遣や利用者の受け入れなどが円滑に行えるようにするものです。

今後とも町では、関係機関と連携しながら高齢者に対応できる体制を進めていきます。

出典：多良木町広報誌

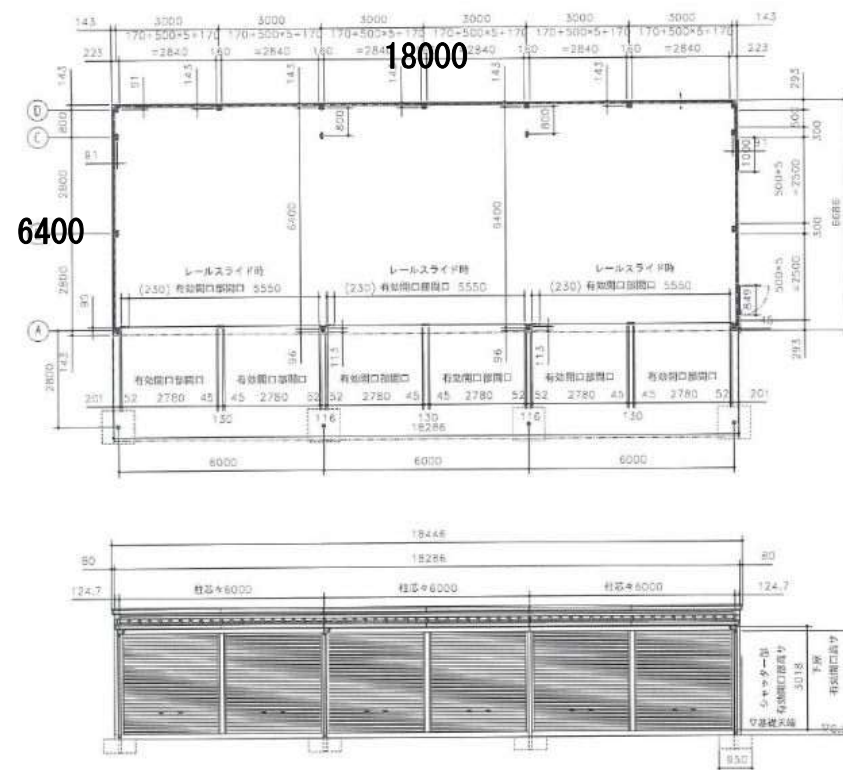
＜災害時対応訓練＞

受付：防災士、一時避難所搬送：消防団
アセスメント：介護事業所連絡会
福祉避難所への搬送：民間介護事業所



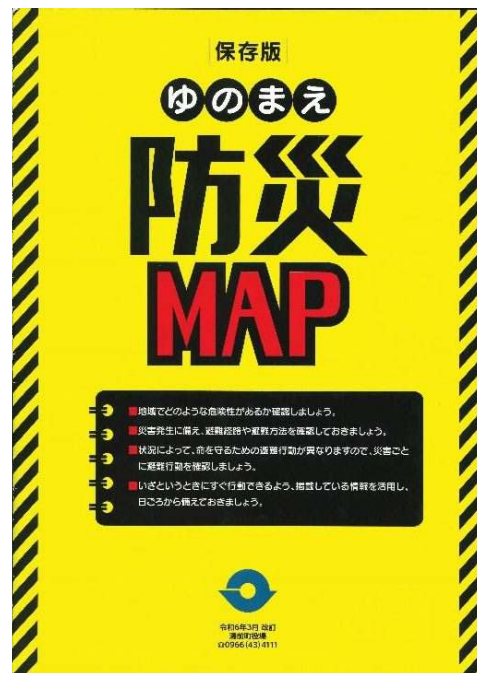
- 「大型備蓄倉庫」の整備
パーティション等の数量が多く大きい物資の資材倉庫
プッシュ型支援に対応

＜大型備蓄倉庫＞



◇防災マップの作成

水位周知河川以外の河川における想定し得る最大規模の洪水を想定した洪水浸水想定区域図を反映させた防災マップを作成し、全世帯に配布。



◇防災士の育成

自主防災組織の方々に熊本県主催の火の国ぼうさい塾を受講していただき、6名の方が新たに防災士の資格を取得。受講に係る費用は、球磨川水系防災・減災ソフト対策交付金を活用し、写真代以外は受講者の負担はなし。

◇防災ラジオの整備

令和5年度から防災ラジオ(280MHZ帯域での無線システム)の運用を開始。

主な整備内容 配信局:庁舎1か所、副配信局2か所、屋外子局:21か所、防災ラジオ:1,800台



◇避難所環境整備

指定避難所中、最大の避難所である湯前小学校と中学校の体育館に空調設備を整備するため実施設計を行い、2カ年に分けて工事を行う。

令和6年度:湯前小体育館、令和7年度:湯前中体育館

◇二等無人航空機操縦士の育成

ドローンの有効活用と安全運航を確保するため、国家ライセンスである「二等無人航空機操縦士」を4名取得。

(3) 【昭和33年12月25日第三種郵便物認可】

日吉新聞 2024年(令和6年)4月19日 金曜日

湯前町の男性職員4人がこのほど、ドローン(無人航空機)操縦の国家ライセンスである「二等無人航空機操縦士」の資格を取得。今後、同町では災害時の情報収集体制の強化やイベント時の撮影などさまざまな場面でドローンを活用した取り組みを進めていく。

現在、同町はドローン機を保有しており、これまで令和2年7月豪雨災害時の被害調査など、災害時や平時の物流におけるドローンを活用した実証実験なども実施しており、法令順

状況の把握など活用。ドローンは空撮のみならず産業や防災分野などで活用範囲が広がっており、機体の性能も日々向上していることからドローンの将来性に期待。

企業法人等の協働の森づくり活動で連携しているJR九州商事(福岡市)など共同で災害時や平時の物流におけるドローンを活用した実証実験なども実施しており、法令順

守と安全運航、有効活用を図るため、同社が開催するドローンスクール(46)と岩本直樹さん(26)と農林振興課の恒松翔也さん(34)建設水道課の大林達朗さん(33)の男性4人が受講。

職員たちは技能講習を修了していたため、オンラインでの試験を含め3日間、座学や実技の講習を受け、全員が二等無人航空機操縦士の資格を取得した。

4人は「飛行前点検など覚えることがたくさんあったが、無事に資格を取得することができてよかった。安全に運航できることがからも技術向上に取り組んでいきたい」と話している。

映像と音声を送信し多くの関係者で情報共有できる可搬型ビデオ会議システムも導入する予定で、災害時の情報収集体制の強化、消防団の活動効率化と省力化に取り組むことになっている。

同町では、災害発生時の被害箇所の全容把握だけでなくイベント時などの上空からの写真撮影、インシデンシス、サルといった鳥獣の生息状況の調査などにもドローンの活用を検討。

消防庁のモデル事業にもドローン活用事業を申請し採択されており、今年度内にカメラを搭載した災害対応用ドローンを新たに購入する。

球磨版

球磨総局
あさぎり町免田3156-2
電話 (0966)45-1110
FAX (0966)45-0399

◆販売取次所◆

古屋敷地区 米本商店 ☎46-1010
湯前地区 栗須販売店 ☎43-3223
岡原地区 松尾販売店 ☎080-3960-4047
上地区 蔵座販売店 ☎47-0203
須恵地区 平川販売店 ☎090-5489-4751
相良村地区 徳益食堂 ☎24-4011
山江地区 稲留酒店 ☎23-4974

本格米焼酎

白岳

いい米、いい水、いい人で、
高橋酒造株式会社
創業明治三十三年
熊本県人吉市合ノ原町498番地
tel0966-24-7726(※各機相談室)
http://www.hakutake.co.jp

「二等無人航空機操縦士」の資格を取得した職員たち

飯田さんに100歳祝い金

あさぎり町は15日、100歳の誕生日を迎えた飯田ツマエさんに敬老祝い金と花束を贈った。

同町は、満100歳の誕生日に町内に引き続き5年以上居住している高齢者に対し、敬老祝い金として10万円を給付する事業を展開。

大正13年4月15日生まれ、多良木町出身の飯田さんは、2人の子

守に恵まれ、この1ヶ月からあさぎり町深田東の特別養護老人ホーム翠光園に入所し、元気に暮らしている。

午前9時半に北口俊明町長が同施設を訪れ、施設の職員らが見守る中、飯田さんに祝い金と花束を手渡し、飯田さんは「お祝いしてもらったことは夢にも思っていなかったのです。とてもありがたいです」と感謝していた。

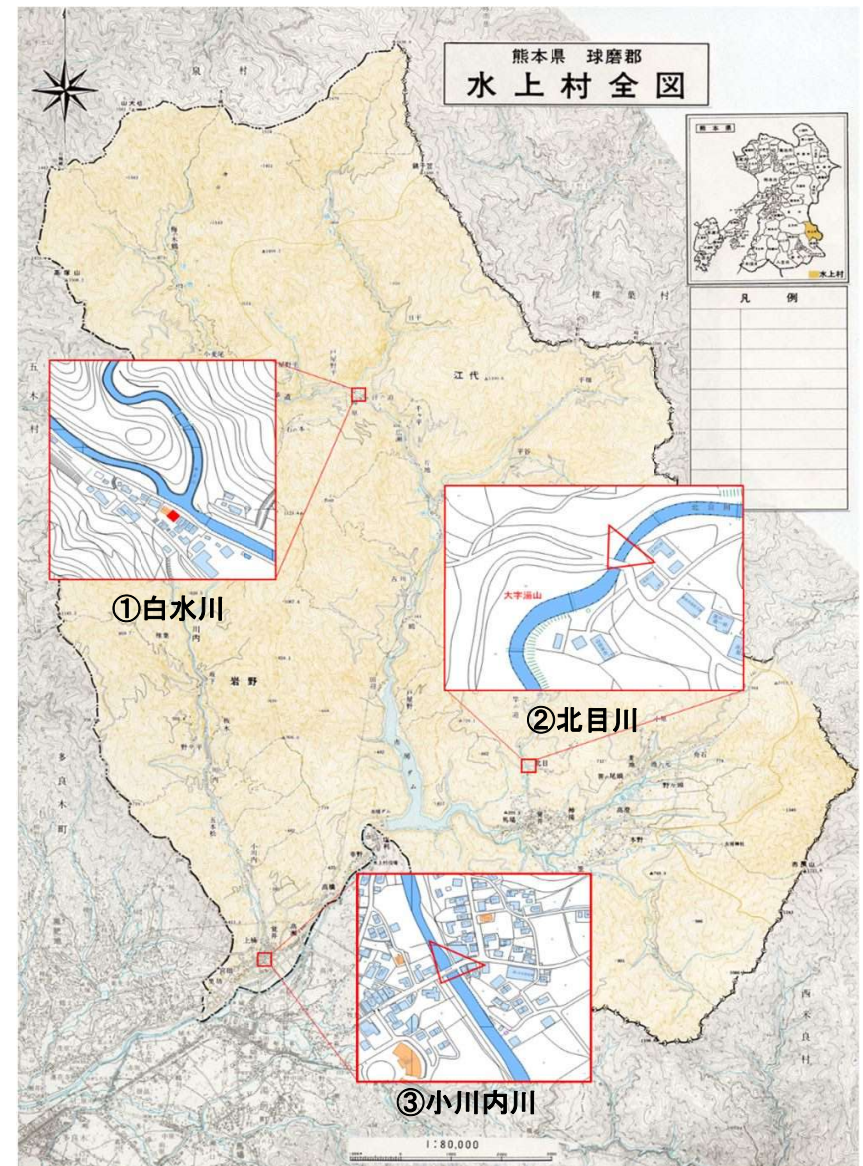
祝い金と花束を受け取った飯田さん(右)

◆河川ネットワークカメラの設置

- ・村内の3河川(白水川、北目川、小川内川)に河川ネットワークカメラを設置し、河川の状況をリアルタイムで監視し、住民避難等に資する。※スマートフォンからもアクセス可能なため、自宅でも監視が可能。



●スマートフォンによる監視



防災機能の強化

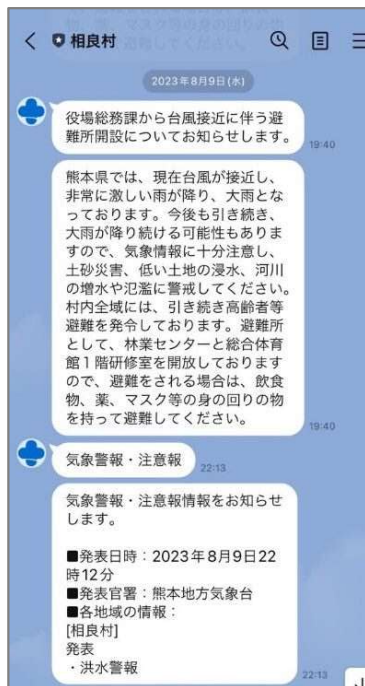
1. 情報伝達手段の強化

○ 防災ラジオの運用開始

令和4年度に全戸及び村内事業所等に配備した防災ラジオの運用を開始。持ち運びができ停電時でも使用できる。

○ SNS（LINE）を利用した情報配信

メールに加え利用者の多い「LINE」を利用した情報配信を開始。文字のみならず画像の配信も可能となり、防災ラジオの聞き逃しによる再確認や視覚的伝達を迅速かつ的確に行えるようになった。



防災ラジオが手元になくても、外出先でも行政からの情報をそれぞれのスマートフォン(LINE)で確認できるようになりました！

2. 消防団活動の強化

○ 小型無線機及び拡声器の配備

災害時に最前線で活動する消防団の情報伝達を確実に図るため小型無線機及び拡声器を配備。

(小型無線機)

双方向やり取りができ、小型・軽量で携帯性に優れ、連携を密にできる。



(拡声器)

特に大雨時の避難誘導等を確実に行うことができる。



3. その他

○ 河川監視カメラの設置

氾濫の高い地区に設置し、河川の水位をリアルタイムに地域住民にも共有ができ、早期の避難行動につなげることができる。

○ 備蓄品の更新

指定緊急避難所（総合体育館、林業総合センター）の備蓄品（R6年度：食料品）について、必要な品目や量を把握し更新。

○ 発電機の導入

機能性や利便性に優れた発電機の導入により非常時の対応を適切に行うことができる。

①避難行動要支援者の避難支援体制の構築

避難行動要支援者台帳をシステム化したことで、避難場所・避難経路等を明確化にし、災害が起こった時の情報をわかりやすく提供できるよう整備した。

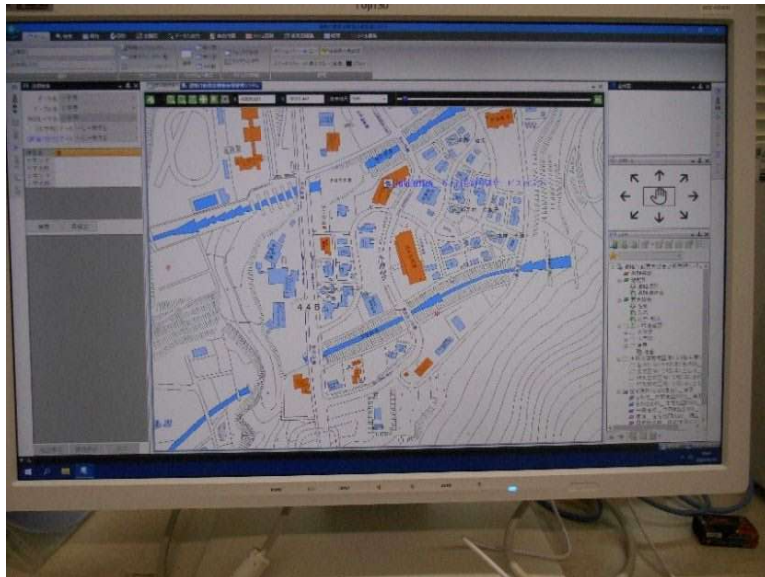
②避難所における生活環境の改善

災害時における生活環境の向上のため、指定避難所である主要な6施設に、家族向けシェルター TENTを購入し整備した。また、高齢者の利用が想定される指定避難所においては、折りたたみ式リクライニングベッドを購入し整備した。

③デジタル行政防災無線“子局新設”の設置

令和4年度地域座談会で要望が出されたデジタル防災行政無線子局新設工事（村内3か所）について、設置工事を進めている（令和6年6月完了予定）地区によっては屋外で聞き取れなかった情報等が新設することで屋内・屋外でも情報を得ることができる。

< 避難行動要支援者台帳システム >



< デジタル防災行政無線設置予定（3基） >



①防災講和の開催

令和5年7月31日の区長会終了後、五木村と国土交通省共同開催により、東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター客員教授の松尾一郎氏をお招きして「防災講和」を開催した。タイムライン防災等で防災行動学の第一人者である松尾教授により、急峻な地形で土砂災害警戒区域も多い五木村において、コミュニティ防災の取組みを実施例を踏まえ説明いただき、参加者においても防災に対する意識の向上が図れた。

当日は、区長・村民・行政職員・関係者等を含め50名程度の参加があった。

②五木村自主防災計画策定に向けた研修会

防災講和後、熊本県知事公室危機管理防災課の自主防災組織活動支援員の日高防災士をお招きして、10月14日に五木村にある自主防災組織の関係者を集め自主防災計画の策定に向けた研修会を開催した。五木村には22地区の自主防災組織があり、11地区において令和6年度以降の計画の策定を行うことができた。残りの地区においては、状況を見ながら実施することとし、全地区において計画策定を目指す。

< ①7/31松尾一郎教授によるコミュニティ防災の講演状況 >



< ②10/14五木村自主防災計画作成に伴う研修会 >



●防災トイレの整備

山江村役場入口付近にシャワーや備蓄倉庫なども兼ね備えた多目的の防災トイレを整備中
(令和6年6月末完成予定)

●新たな指定避難所の設置

R2年7月豪雨災害で山江村で被害の大きかった万江地区に指定避難所がなかったため、R4年度から万江地区にある体育館の改修、耐震工事を進め完成後、R5年度に指定避難所に指定

●地区防災計画の作成

R5年度に全16行政区で地区防災計画の作成に取り掛かり、11行政区で策定

●防災訓練の実施

R5. 9. 10 全村民を対象とした総合防災訓練を実施（大雨を想定）

職員参集訓練・災害対策本部設置訓練・避難所開設運営訓練（2か所で開設）・消防団等による避難行動要支援者の安否確認、及び行方不明者搜索訓練、自主防災組織による遠隔防災行政無線を使用した避難誘導訓練など総合的な訓練を実施

●その他の取り組み

地区別ハザードマップの作成業務（4地区）※R4年度から着手 R7年度完了予定 16地区中8地区完了

最大想定浸水区域を表示した管内全体図の作成業務

IP無線機の機能強化

備蓄食料品の購入

山江村防災連絡会議の開催



防災トイレ（完成イメージ図）



万江地区指定避難所(万江体育館)



地区防災計画作成説明会（R5. 7. 24）



防災訓練（R5. 9. 10）

- ・自主的な防災活動の意見交換等を行う「自主防災組織連絡会議」を実施。(令和6年4月2日)
- ・「効果的な防災施策の実施に向けて、「村民防災ブロック会議」を実施。(令和6年4月16日)
- ・各集落の災害特性に応じた対応行動として、「全村民が避難について考える日」を実施。(令和6年5月12日)
- ・村民の防災意識高揚に向けた、体験型の「防災教育の日」を実施。(令和6年12月1日予定)

＜自主防災組織連絡会議＞

- 目的
今年度の防災ソフト施策等について認識を統一する
- 実施日 令和6年4月2日(火)19:00～21:00
- 実施概要
 - ・自主防災組織は、令和6年4月末現在で22組織が運営されている
 - ・会議当日は、15組織が参加し、本年度の主要な防災ソフト施策及び公民館等整備状況の説明と各自主防災組織が現在検討している活動内容等の意見交換を行った



会議実施状況

＜村民防災ブロック会議＞

- 目的
梅雨期前までに実施すべき事項をブロック毎に総括する
- 開催日時：4月16日(火)19:00～
- 場所：球磨清流学園南屋内運動場
- 会議概要
 - ・動機付けとして、村民防災ブロック会議の意義について説明
 - ・梅雨期までに準備すべき事項について、ブロック相互に意見交換
 - ・各ブロックで話し合った内容を「全村民が避難について考える日」に繋げた



会議実施状況

<全村民が避難について考える日>

- 目的
避難について住民自らが考え実践し、梅雨期前に防災体制を確立する
- 実施日：5月12日（日）午前中
- 実施概要
 - ・役場から避難指示等の発令
 - ・住民計画による防災行動
 - ・役場職員による住民の行動確認及び県の防災情報共有システムを利用した報告訓練

過去の実施状況



村民による活動状況



住民避難



消火体験



煙体験



救命処置説明

<球磨村防災教育の日>

- 目的
住民と児童生徒が一体となり、共助・公助を主体とした災害対応について、体験型の防災学習を実施予定
- 実施予定日：令和6年12月1日（日）
- 実施概要
 - ・住民避難、関係機関による展示、体験学習 等

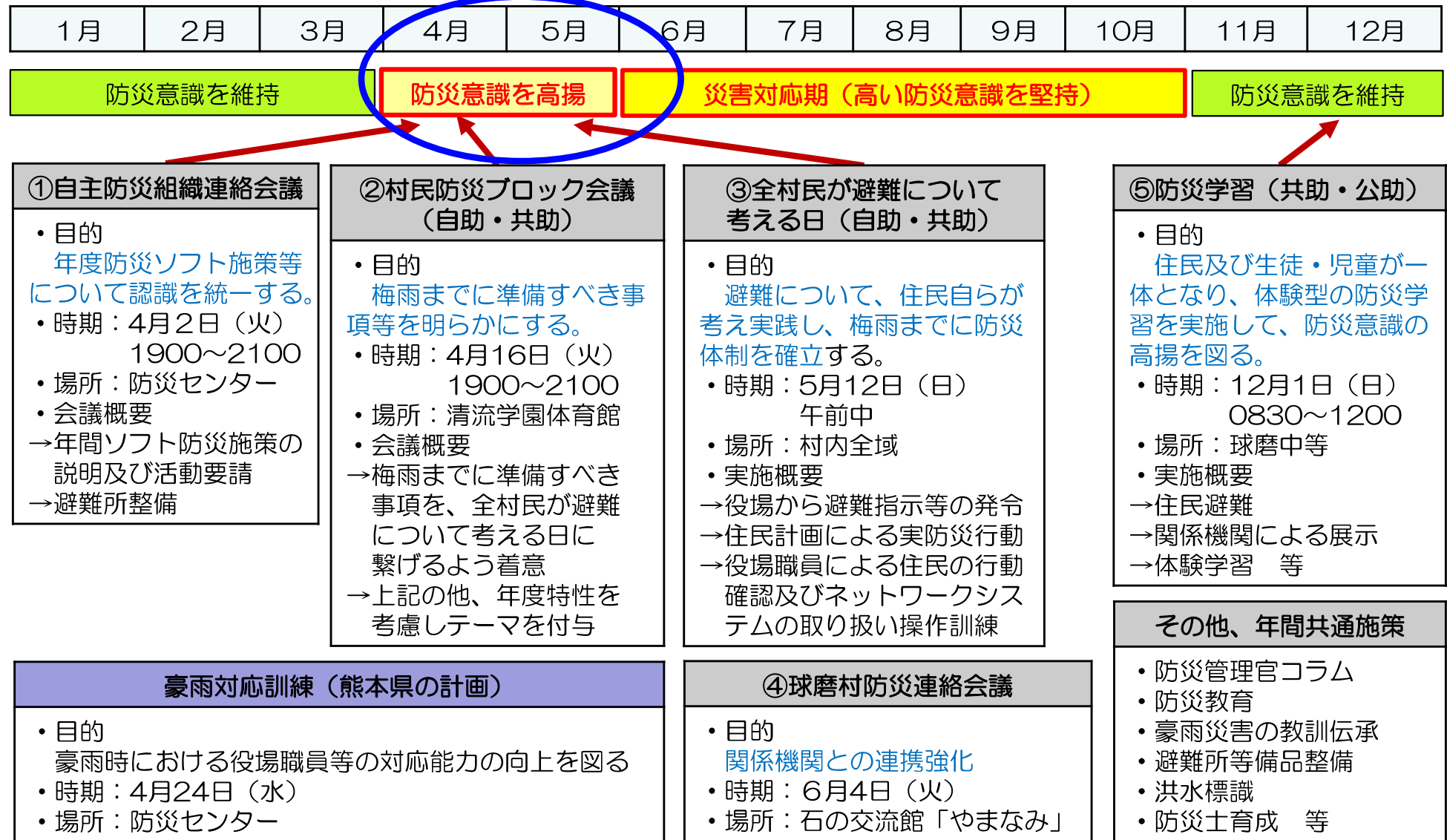
<災害語り部の活動>

- 実施概要
 - ・「災害かたり部」の活動を開始し、後世に災害の記録と記憶を伝える取り組みを実施
 - ・令和5年度は県内外の団体（36団体）が利用



活動状況

令和6年度 球磨村防災ソフト施策について



・ 4月から梅雨に入るまでに、**防災ソフト施策を集中させることで、住民の防災意識を最高度に高め、**台風シーズンが終わるころまでは、**高い防災意識を堅持**する。